五行歌の会	きんきサロン通信７月号	発行:きんきサロン　代表・いぶやん 編集長・小倉はじめ No.047　2026.7.15

七夕歌会､たくさんのご参加ありがとうございました！

六席福田･五席西田･四席いぶやん三席玉虫二席上田

一席　野田　凛

のぶし賞　HIKARIKO

ハーモニカ演奏

７月５日きんきサロン七夕歌会でした。第１部びわ湖バレイ吟行コース、ＪＲ湖西線志賀駅集合。路線バスで、びわ湖バレイ山麓駅へ､ゴンドラで高度 1,000m の山頂。時折雨のちらつく空模様で、びわ湖テラスからの絶景を楽しみにされていた皆様には、大変残念だったかもしれませんが、雲の中の天空テラスもまた、ミステリアスな風情がありました。せめてものお詫びにと晴れた日のテラス写真張り付けました。また機会をみてリベンジしてみてください。

第２部歌会は、志賀駅近辺の木戸交流センター､関西の各歌会からも多くのご参加いただきました。本部からも三好乃武士さん、はるばる駆けつけていただき、のぶし賞も選定いただきました。今回､大津市教育委員会の後援もいただけて地域から初参加の３名を含む合計３０名の賑やかな歌会となりました。休憩時間には、初参加の山本さん･サックスマンさんによるハーモニカとギターで、懐かしい唱歌の演奏と会場からの合唱という、サプライズもあり、和んだ雰囲気･その一体感に感無量でした。

歌会成績は次ページ以降の点数表示ごらんください。入賞者は、上記画像参照でお願いします。こうして今年の七夕歌会、無事お開きとなりました。ご参加いただいた歌友の皆さん、実行委員会の皆さん、ありがとうございました。お疲れさまでした。乃武士さん送りがてらの京都駅近辺のカラオケ含めて二次会も盛り上がりました。また来年も、新生きんきサロン七夕歌会へお待ち申し上げております。 (いぶ記)

第 328 回きんきサロン(七夕歌会)

1
そっと目を閉じ
両手を広げてみて
風が身体をつかみ
ふわっと浮かぶの
ほら　感じるでしょう
　　むつ子 19 点

2
涼風に
波の音
歓声は
湖上からの
揚花火
　　大瀬良稔子 11 点

3
流れ星
秒速 10 キロだったら
三回言えるかな
叶うかな
願い事
　　平村幸子 21 点

4
短冊に願いを書き
笹に結んだ
遠い遠い日
昨今は
笹飾りを横目で
　　黒田節子 ＊

5
星になれ輝く星に―
卒業から幾星霜
校歌とはかけ離れた
月並みな人生のまま
星　をみている
　　中島さなぎ 21 点

6
みみをくすぐる
コンチキチン
祭囃子の稽古に
足を止め
夏をつかまえた
　　岡桂 19 点

7
雨の日は
ちょっと憂鬱
でも今日はウキウキ
私だけの新しい
水色の空を広げる
　　こねこのこ 21 点

8
北斗七星は
ミューズの
星々をぐるぐる掻き混ぜ
詩華のエッセンスを
汲み上げる
　　いぶやん 35 点 ４席

9
大安の平安神宮
羽織袴の新郎は誇らしげに
ベビーカーを押して
めでたい　めでたい
二重に目出度い
　　坂東和代 27 点

10
ここからだと
あなたのいる天国に
少し近いのかな
まるで天空
琵琶湖バレー
　　小林栄子 20 点

11
盆と正月と夕が
同時に来みたい
嘗て好だった
3 人の異性に会えた
夢の中
　　ひまわり 12 点

12
クマの出没ニュース
困惑する々に
憐憫という一石
知床海岸の白骨化した
クマの映像目にすれば
　　須賀知子 17 点

13
農家育ちの役得は
済んだことは嘆かずに
身に過ぎたる欲は捨て
得は天恵と享受して
心静かに生きること
　　西田典貢 32 点 ５席

14
何をやっても
へたくそだけど
独りでも　のびのび
いられる世界は
うまく築けた
　　野田凛 38 点　1 席

15
薫風
微風
光風
緑風
ずっと続いて
　　雪月花 12 点

16
あっ
鳥の声が変わった
気づかない間に
少しずつ季節が進む
夜明け前
　　福田知代子 31 点 ６席

17
森を抜け
ふと、見上げると
ぷかり　ぽかり
ミルク色のの花
優しく香って夢の中
　　山茶花 15 点

18
カンチェンジュンガに登ってみた
流れ星が肺を射抜く
渡り雁が脳天に留まる
僕たちは見つめ合い
そっと翼に抱かれて涙を凍らす
　　ほたるいかさだ　＊

19
ただいまも
おかえりも
聞こえない家
あなたの気配を
捜している
上田貴子 37 点 2 席
20
心のドローン
雲の上まで上げてみた
見つけたのは
たくさんの思い出パラシュート
しずかに配達を待っている
小倉はじめ 16 点
21
パパママネエヤン泣カサナイ
パパママニイニモ泣カサナイ
これ呪文のように唱えて。
どうか
「深み」に嵌らないで
かさね 10 点
22
天邪鬼ぶって
秘密主義ぶって
ただの筆無精
白紙の短冊
風につつかれてる
三好乃武士 25 点
23
藤紫に
紋白蝶
時は移り
と　深山に潜む
不如帰
天河童 ＊
24
早苗田そよそよ
水鏡の雲を追う
車イスの母
そして
夕焼けの空
HIKARIKO 23 点　のぶし賞
25
二人で眺める
夕陽
それぞれの心に
それぞれの色で
落ちてゆく
玉虫 36 点 3 席
26
琵琶湖の東岸
岸側に敵がいるので
湖に馬ごと乗り入れ
かなりの距離を
泳いで渡った水馬の術
二等流 ＊
27
福引きを
引く場所だった
人生の
外れの
捨て場所知らず
湖青 14 点
28
想い切るの苦手で
いつも過去のを引きずっている私
捨てるときは思い切って捨てる！と貴方はいつも
言うけれど
捨てる？捨てない？　結果捨てない
だから貴方との今の生活があるのよ
たえるこ 10 点
29
黒壁の
若者の中
我　歩く
ガラスの　眼
今や　消えて
山本栄一 12 点
30
おめでとう
孫の声　来た
76 のバースデー
返事の文字が
跳ねる
びわ湖のサックスマン 19 点
31
来年も
色いろな人と・・・
なんて書いて
飾った短冊は
青
西村康則 12 点

■参加者(30 名)天河童・いぶやん・上田貴子・小倉はじめ・大瀬良稔子・岡桂・かさね・黒田節子･こねこのこ･小林栄子･山茶花･須賀知子・雪月花･玉虫･中島さなぎ･西田典貢･西村康則･二 等 流・野 田 凛・三 好 乃 武 士・ひ ま わ り・HIKARIKO・平村幸子・福田知代子・ほたるいかさだ・むつ子・坂東和代・

■（見学者）たえるこ・湖青・びわ湖のサックスマン・山本栄一

■(歌のみ）湖青

■次月 8 月きんきサロン
2026.8.2（日）13:00　こどもみらい館
会場変更となっています。留意ください。

■編集長の一言
　無事七夕歌会が終了し、ホッとしています。プラン作りから下見、後援申請、会場確保とほぼ 1 年がかりの準備でした。その努力にもかかわらず霧のびわ湖テラス、まだ我々に足りなかったものがあるのでしょう。反省です。
　晴れると素晴らしい景観です。ぜひリベンジしてみてください。私が思い起こすのは 2005 年琵琶湖大津館でのきんきサロン七夕歌会。もう彼岸へ行っちゃったけれど、あの時は、泊舟さん、東風さん、東風さんの母堂、高山三郎さん、中邨八重子さんなどなどおられました。東風さんが三井寺から切った笹を持ってきて、短冊を吊るしました。もう 20 年前の話ですが、こうして伝統受け継いで今年もできて良かったです。（はじめ記）